



冬号

発行所
公益財団法人
全国学校農場協会

東京都渋谷区
円山町2-20

**第8回全国農業関係高等学校
エッセイコンテスト
受賞者決まる**

今年も全国の高校から多くの玉稿が寄せられ厳正な審査の結果以下の様に最優秀・優秀作品が決定した。受賞者には農民文学会、公益財団法人名の表彰状・副賞が贈られた。

平成29年1月11日

選考委員

日本農民文学会

会長 野中 進

(公財)全国学校農場協会

理事長 日置 司明

全国高等学校農場協会

会長 岡本 利隆

全国高等学校農場協会

事務局次長 田中 平一

入賞作品

最優秀賞

『私が描く明日の農業』

福島県立会津農林高校

農業園芸科 三年

佐藤 佳奈

優秀賞

『馬とともに生きていく』

東京都立農芸高校 食品

科学科 三年 大澤 萌
『尾瀬戸倉温泉を活性化させ、地域を興す』
群馬県立利根実業高校
グリーンライフ科 二年
萩原 健輔

『思い出の親子丼』
群馬県立安中総合学園高校
総合学科 二年
穴津子 賢人

『私が目指す夢のカタチ』
長崎県立諫早農業高校
バイオ園芸科 二年
西村 郡

『郷土の未来のために私ができること』
長崎県立諫早農業高校
バイオ園芸科 三年
濱本 恵

最優秀賞作品紹介

私が描く明日の農業

福島県立会津農林高校
農業園芸科 三年
佐藤 佳奈

「アサーヨナ舞い込んだアよな」これは、学校のある会津坂下町の伝統文化「早乙女踊り」のお囃子です。この踊りは、毎年七月の御田植え祭りに、田植えの季節を知らせる神様の使いとして大正時代から町内の保存会が奉納していましたが、後継者不足により八年前に保存クラブとして学校に継承されました。私は入学時から先輩方に指導を頂き、舞方として参加しています。また、町内では重さ五トンの大俵を引き合い、その年の米の値段と豊作を占う大俵引き祭りがあり、古くから町民の生活と農業、特に稲作が密着しているのが特徴です。

私の住むこの町は、東に磐梯山を仰ぐ会津盆地のほぼ中央部に位置する、自然豊かな町です。人口およそ一万六千人、その内、基幹的農業従事者数は約千五百人で、米の生産が農業産出額の七五%を占める国内を代表する米どころです。そして、私の家は代々続く専業農家で、十三haの水稲を柱に肉用牛三十頭と、花卉二十aの複合経営を家族で営んでいます。水稲部門はコシヒカリを中心に三品種を作付し、肉用牛部門は黒毛和種の繁殖牛を五頭

と肥育牛二五頭を飼育、花卉部門では育苗ハウスを利用したストックの栽培を行っています。

私は現在、会津農林高等学校の農業園芸科で畜産を専攻し、黒毛和種の肥育に携わっています。また農場では、江戸中期に記された農業の指導書「会津農書」で守られてきた、会津伝統野菜を栽培するなど、地域風土に根差した種と文化の保存に取り組んでいます。私の周りではいつも、四季を感じる様々な農畜産物が密接に関わり合い、それらについての会話を日常的に聞いて育ちました。最近では、TPP参加による農畜産物の輸入量の増加や、繁殖牛不足による子牛価格の高騰などを受けて、今後の我が家の経営改善について話し合うことが多くなりました。

先日、我が家の繁殖牛の「さくらこ」が七度目の分娩を迎えたので、私も立ち会いしました。さくらこは破水をしてから陣痛の度に苦しそうに背中を丸めて、立

つたり座つたりを繰り返して、ようやく自然分娩で子牛を産み落としました。私は生まれたばかりの子牛の体をワラでマッサージしてやると、温かい鼓動を素手で感じ、命の尊さに感銘を受けました。しかし、この子牛も三〇ヶ月後には食用に屠畜されてしまうことを思うと、複雑な気持ちになるのです。そのような中、日本の食料自給率は先進国の中では非常に低く、約六割の食料は輸入に頼っていることを知りました。国内の生活様式が欧米化し、旬を感じさせない世界中の生鮮食料品をいつでも求める事が出来るのです。しかし、食料自給率が改善されない一方で、国内に流通している食品の約三分は、食品ロスとして無駄に廃棄され、安全性を指摘されている輸入食料品が恒常的に流通している現実には、私は強い憤りを感じました。

そこで私は、我が家の生産の安全性について考えてみました。私の住む集落は、かつて大雨の度に水田が冠水し、病気が多発していました。そこで健全な米作りには有機質による土づくりが必要だと考え、堆厩肥を求めて昭和三五年に肉用牛部門を導入しました。すると、数年で地力が向上し、農薬の使用量が激減したそうです。現在では全ての圃場に完熟した自家製堆厩肥を還元するようになり、化学肥料と農薬を五割以上低減した特別栽培米を生産しています。これらは、自然環境と健康に配慮した我が家の生産理念であり、収量と品質の安定につながっています。同時に、牛に与える稲わらと敷料の粗穀は、我が家で生産された安全なものだけを利用しており、補完型循環農業を実現させています。また牛舎は消毒が徹底され、飼養密度を通常より広く確保しています。これにより飼養頭数は制限されますが、牛のストレスを回避し肥育効率の向上と診療回数削減の減少を図っています。この他にも、家畜伝染病予防法や飼料安全法など様々な法令を遵守し、獣

医師や行政機関の指導のもとに適正に管理されていることが解り、とても安心しました。

これらのことから、私は今後大学に進学し、安全な食糧生産と自給率の改善の研究に取り組みたいと考えています。そして自然を愛し感謝する心を養い、特徴ある地域農業の大切さと、生命がもたらす本当の豊かさを守り伝えて行きたいと思えます。それが地域農村の安定した生産環境を構築するための、私たちに課せられた使命なのです。

その他の公開事業

武蔵野に広がる雑木林と畑が織りなす景観と落葉堆肥を使う農法が日本農業遺産



産に登録されました。高校生が冬の一日を落葉掃きに汗を流しました。

(埼玉・三芳町)

平成29年度 第61回
農業実験実習講習会のご案内

北海道地区 (7/31~8/4)

食品製造・畜産

帯広畜産大学

東北地区 (7/24~28)

農業と環境

東北大学大学院

農学研究科

関東地区 (8/21~25)

食品化学

日本大学 生物資源科学部

近東地区 (8/21~25)

農業と環境

名城大学 農学部

中国地区 (7/31~8/4)

農業と環境

鳥取大学 農学部

九州地区 (8/21~25)

農業と環境

琉球大学 農学部

いずれも、申し込みは

4/16~6/1までです。

東北・九州以外は、教員免許状更新講習の対象です。

詳しくはHPを参照ください。



本気で向かい合う。

だから、楽しい。

進化する東京農大

2017年4月 新たに1学部5学科が開設!

- 生命科学部
- バイオサイエンス学科
- 分子生命化学科
- 分子微生物学科
- 地域環境科学部
- 地域創成科学科
- 国際食料情報学部
- 国際食農科学科

東京農業大学

〒156-8502 世田谷区桜丘 1-1-1 www.nodai.ac.jp